

令和8年度 第2回甲賀市社会教育委員の会議 議事録(要約)

日時：令和8年(2026年)6月22日(月)

15時00分～16時45分

場所：水口図書館資料室

出席者 (委員)西村委員長、岡村副委員長、東委員、古賀委員、福井委員、松本委員、辻委員
木村委員、岩永委員、平井委員、武村委員 以上11名
(図書館)香取水口図書館長
(事務局)福井理事、林課長、川上課長補佐、稲葉主事、沢井社会教育統括指導員
傍聴者 2名

委員総数13名の過半数が出席。甲賀市社会教育委員会会議規則第3条第2項の規定により、過半数を満たし会議成立。

1. 開会 市民憲章唱和

2. 委嘱状交付

3. 理事あいさつ

4. 自己紹介 委員、事務局職員

5. 正副委員長選出 委員の互選により選任

委員長 西村忠三委員 副委員長 岡村貴子委員 (前回に引き続き)

委員長、副委員長就任のあいさつ

- ・あて職として委員長は県社会教育委員連絡協議会理事に副委員長は市青少年育成市民会議運営委員に就任。市人権教育研究大会実行委員に辻委員が就任

6. 協議事項 ここより委員長が議事進行

(1) 社会教育委員の役割について 事務局より説明

現在県の社会教育委員ハンドブックが改訂中で一部抜粋して説明

- ・社会教育は学校教育と家庭教育を除く教育をさし、非常に幅広い分野である。
- ・社会教育委員は①社会教育の諸計画を立案すること、②教育委員会の諮問に対して、会議を開き意見を述べること、③調査研究を行うことが主な任務。
- ・独任制であり、個人として調査研究をし、意見を述べるができる。

(2) 本年度のテーマについて

課長よりテーマ設定の背景と協議の経緯について 別紙資料による

①「図書館を取り巻く現状と課題」について

現在、本市では5館体制で図書館を運営。人口減少や厳しい財政状況を踏まえると、この体制を将来にわたって維持していくことは容易ではないとの意見。

利用者は子どもや高齢者が中心で働く世代をはじめとする中間世代の利用が少ないことも課題。さらに、学校図書館と地域図書館との連携不足や、デジタル化の進展によって図書館に求められる役割が変化していることも指摘。

一方、図書館は地域にとって重要な施設であり、統廃合を進める場合には地域住民への影響や理解を十分に考慮すべきとの意見。

②「図書館の役割」について

委員からは、これからの図書館は単に「本を借りる場所」ではなく、「知る」「学ぶ」「交流する」「つながる」ための拠点として機能を広げていく必要があるとの意見が多く出された。

特に、子どもや不登校児、高齢者など、多様な世代の居場所としての役割や、地域住民が自然に集まり交流できるコミュニティの拠点としての役割が期待されているため、図書館単独の機能だけではなく、人が集まるさまざまな機能を組み合わせていく視点が重要であるとの考え方を共有。

③「施設のあり方」について

現在の議論では、「中央館と地域館の役割分担」という方向性が案として挙げられている。中央館は蔵書や専門的なサービスを集約する拠点とし、地域館は交流や居場所づくり、地域活動の拠点として位置付ける考え方。ただし、施設数については意見が分かれ、現在の5館を維持しながら機能転換を図るべきという意見がある一方で、将来的には3館程度への集約も検討すべきとの意見も出されている。

また、地域館については独立した図書館にこだわらず、公民館やコミュニティセンターとの複合施設化、あるいは他施設内への図書機能の配置なども検討すべきとの提案があった。その際には、市民が利用しやすい交通環境を確保することが重要な条件。

④「運営やサービスの改善」について

オンライン予約や資料配送サービスなど、利用者の利便性向上を図る取り組みが必要。また、学習スペースや交流スペースの充実、学校図書館との連携強化、司書配置の充実なども求められている。カフェの導入や民間活力の活用についても意見が出されたが、単なる付加価値ではなく、利用促進や交流創出などの目的を明確にした上で検討すべきとの考え方が示された。

⑤「今後の検討の方向性」について

委員会では、「5館を維持するか、削減するか」という施設数だけの議論ではなく、市民にとって必要な機能や価値をどのように維持・向上させるかが重要であるとの認識で概ね一致。また、図書館を単独の施設として考えるのではなく、社会教育や学校教育、地域活動との連携の中で再構築していくことが必要。

⑥「検討のスケジュール」について

令和7年から8年をまたいで、甲賀市の図書館のあり方について検討いただき、8月末には提言を出していただきたいので、次回は7月に開催していただきたい。長期的には社会教育委員の提言を受け、令和10年には図書館の再編計画の策定を目指す。

(委員長)3館というのは前回の討議で出てきたもので、この中で案として出すべきものか検討課題かと思う。それでは2つのグループに分かれて、新委員さんからの疑問や意見も含めて協議してください。

※2グループに分かれての協議

グループ協議内容の発表

(A グループ)

今までの討議経過を共有したが、新しい委員さんから違った観点での意見もいただけた。5館、3館の問題は今現在どうするものではないが、将来的には今のままの維持は難しいのではないか。長期的には考えなければならないのではないか。中央館と地域館という分け方をすると、差ができて市民の不公平感が出ないように移動図書館や交通機関の充実などのサービスを図る必要がある。閉館することは市民の同意が得にくいのではないか。

学校図書館との連携も話題になったが、社会全体で文字離れもあり、根本的なてこ入れも必要ではないか。図書館友の会ができ、本に親しむ取り組みをしていただいている。

結論的には今までの議論をまとめた本日の資料を基に提言をまとめていけばいいと思う。

(Bグループ)

3館になるとどこを減らすのか質問があったが、現在3館にすることも含め決まっていない。複合施設になる場合、本来の図書館機能が失われるのではないか。一方、箱モノだけ残しても予算面でそれぞれの充実が図れないのではないか。この先10年、20年スパンで図書館にどうかかわるのか考える時、近くで使いやすい場所にあることが必要。住民がどんな図書館を望んでいるのかを入れた提言ができるのかという懸念が出された。図書館を利用しない、できない方等の多様な意見を聞く必要があるのではないか。7月の市民意識調査結果を活かすことができるのか。

市内の公共施設が老朽化・新改築が必要になる中で、図書館だけを別個に考えるのではなく、他の施設や民間施設との関連も考えていかねばならないのではないか。

(委員長)慎重なご審議ありがとうございました。本日の協議はこれで終わりたいと思います。

7. 連絡事項

今後の予定 提言の時期が迫っていることもあり、次回は7月に開催したい。委員の皆さんのご都合を合わせ開催のご案内をします。

その他、県や市の研修会、研究会の参加意向をお聞きします。

8. 閉会挨拶 岡村副委員長